

【評価基準表】

項目		評点	基準			
1	規模・方法の妥当性	4	事業の規模・方法について対象者等の具体的なニーズに基づき、適宜見直しを行っている。もしくは、現段階では改善すべき点がない。			
		3	事業の規模・方法について適宜見直しを行っている。			
		2	事業の規模・方法について適宜見直しを行っているが、まだ見直しすべき点がある。			
		1	事業の規模・方法について見直しを行っていない。			
2	公平性	評点表		対象限定		
				限定していない	そもそも対象限定の事業※3	限定している
		受益者負担	徴しており負担額が適切	4	3	2
			受益者負担が適さない※1	4	3	2
			徴する必要がないと判断される ※2	3	3	2
			徴しているが見直しをしていない	2	2	2
徴すべき事業であるが見直していない	1		1	1		
※1 ・市民生活や農産業のために市が行わなければならない事業：防災、整備、相談、検診 ・市内部の基盤整備や資質向上：情報、研修、資産管理 ・義務教育（無償）に関する事業：授業、人員配置 ・市税等徴収、助成事業 ※2 ・市民向けのサービス提供：福祉・子育て等のサービス、講座、イベント ※3 ・対象：妊婦、高齢者、成人 等						
3	効率性	4	単位コストが低下傾向である。			
		3	単位コストが維持または上昇傾向であるが、適時、単位コストの低下につながる取組みの見直しを行っている。			
		2	単位コストが維持または上昇傾向であるが、単位コストの低下につながる取組みを行っているものの、その見直しを行っておらず、効果が生じていない。			
		1	単位コストが維持または上昇傾向であり、単位コストの低下につながる取組みを行っていない。			
		把握できない	活動又は成果の実績がないために単位コストが算出できない。			
		R 5 新規	令和5年度新規事業。			
		※令和4年度の単位コストが著しく低いために、令和5年度の単位コストが上昇したように見える場合であっても、実績値に対する評点を付してください。				

項目		評点	基準
4	活動目標達成度	4	活動指標の達成度が75%以上である。
		3	活動指標の達成度が50%以上75%未満である。
		2	活動指標の達成度が25%以上50%未満である。
		1	活動指標の達成度が25%未満である。 または、活動指標を成果を達成するための手段として再検討を要する。
		活動に至っていない	活動実績がない。
		※複数の指標で達成度が異なる場合は、平均した達成度で判断してください。 (例) 指標1：達成度55%、指標2：達成度75%の場合、平均は65%となり、評点は3となります。	
5	成果目標達成度	4	成果指標の達成度が75%以上である。
		3	成果指標の達成度が50%以上75%未満である。
		2	成果指標の達成度が25%以上50%未満である。
		1	成果指標の達成度が25%未満である。 または、成果指標を目的（意図）の達成状況を把握するためのものに再検討を要する。
		成果に至っていない	成果実績がない。
		※複数の指標で達成度が異なる場合は、平均した達成度で判断してください。 (例) 指標1：達成度55%、指標2：達成度75%の場合、平均は65%となり、評点は3となります。	